



# 同窓会会報

鹿児島大学教育学部

第19号

平成29年11月20日

発行

鹿児島大学教育学部  
同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-20-6  
電話・FAX 099-285-7718

編集・印刷

濱島印刷(株)

## 同窓会設立20周年記念大会 平成30年8月5日(日)開催

平成29年度同窓会総会及び懇親会は8月6日開催予定のところ、台風5号の接近に伴い中止となった。そこで、6月12日に開かれた理事会の決議をもとに、特記すべきことについて報告する。

平成30年度は、設立20周年を迎えるにあたって、同窓会名簿第2号の発刊とともに、記念大会開催に向け、実行委員会を組織し、具体策の企画

立案が推進されている。

記念大会は、平成30年8月5日(日)にジェイドガーデンパレスを会場として計画され、午前9時の総会を皮切りに記念式典、世界的な音楽家である同窓生の下野竜也氏の記念講演、そして祝賀会が予定されている。

主な事業の一つに「同窓会の歌」作成がある。これまでに継承されてきた「武岡嵐」や

「北辰斜めに」は、同窓生の心の糧として誇りに思い歌い続けられてきた。今回20周年という節目にあたり、「同窓会の歌」の誕生は、教育の道を志し、学ぶ仲間の世代を超えた堅い絆となるものだろう。

「同窓会の歌作成部会」では、作詞・作曲ともに順調に進んでいる。同窓生としては記念式典でのお披露目を今や

鹿児島大学教育学部同窓会が設立されたのは平成10年1月25日で、これまで設立10周年・15周年と記念の事業を行ってきたっており、来年は20周年の節目を迎えます。

その記念の平成30年は、日本の近代化に向けてわが郷土の多くの薩摩人が原動力となつた明治維



### 未来を見据えた更なる活動を

鹿大教育学部同窓会長 石神 正明

新150年とも重なり、この機会に同窓会を更に盛り上げることは、また意義あることと思います。

その取り組みを本年8月の総会で取り上げることにしていました。台風5号の接近のため総会は中止せざるを得なくなり、楽しみにされていた会員の方々やこれまで準備

を重ねてこれらの方々に、特に懇親会の計画検討・推進にご尽力いただいていた昭和51年卒の皆様方には、誠に申し訳なく思っております。

昨年、同窓会総会で決定された重点事項の一つに「設立20周年記念に向けた実行委員会の組織・準備推進」があり、それについては平成28年10月

は、平成30年8月5日(日曜日)、会場もジェイドガーデンパレスと決まりました。また当日の日程検討や記念誌及び在学生と卒業生との交流研修「鹿児島島の教育を語る会」の文集第3集刊行への取り組みも進んでいます。

また、同窓会の歌作成は担当部会で慎重に検討の結果、委嘱者を選定し、依頼することになりました。作詞については、第17代の元教育学部長伊牟田経久先生にお願いしましたところ「我が友よ」という題名で、教えの道を志す堅い絆で結ばれた仲間としての歌詞を作成してくださいました。作曲は、同窓会員で昭和45年卒・鹿児島純心女子大学教授・藤尾清信先生と、鹿児島大学教育学部准教授・石田匡志先生にお願いしまして、

歌詞の素晴らしさを生かし心に響く作曲をしていただき、まさに歴史と現在を踏まえ、未来へと繋ぐ深い絆になるものと思います。

また当日の記念講演は、世界的なオーケストラの指揮者であり、同窓会員で平成4年卒の下野竜也先生にしてくださいました。また大きな花を添えてくださることになりました。

来年の懇親会は「記念祝賀会」として、昭和52年卒の方々のお世話で、盛大に行われることになっています。

皆様のお力で、これまでの同窓会の集大成と未来に繋ぐ更なる発展をめざす記念大会となるよう、多くの方々のご参加をお願いいたします。ご多幸をお祈りいたします。

## 平成29年度同窓会運営基本方針

教育学部同窓会は、平成10年に発足して19周年を迎える。鹿児島大学教育学部の沿革をたどれば、1875(明治8)年に始まり142年の年輪を刻む。鹿児島大学の中で本学部は最も長い歴史に支えられている学部として、2万余人の卒業生を擁する同窓会である。

本会は、会員相互の親睦、鹿児島大学及び本学部の発展と本県教育の振興を図ることを目的にして、今日的課題をとらえ活

動してきている。今後は、さらに組織の拡充・活性化、在学生への支援、各地域の教育力の涵養、鹿児島大学同窓会連合会との連携に努め、以下の活動を推進する。

成に努め、会員との交流を深める。

平成29年度事業計画

平成29年4月14日(金)	第1回三役会(会長・副会長・専門部長)
5月12日(金)	第1回総務部会(50年卒世話係代表との打合わせ)
5月26日(金)	会計監査
6月1日(木)	役員会(理事会懸案事項の検討、その他)
6月中旬	同窓会費納入奨励月間(会費納入願発送)
6月12日(月)	理事会(総会懸案事項の審議、その他)
7月4日(火)	第1回広報部会(会報の企画関係)
7月7日(金)	第1回研修部会(鹿児島島の教育を語る会)運営関係)
7月13日(木)	会報「19号」掲載用学部への原稿依頼
7月中旬	「語る会」会場確認、学部へ文書による依頼
8月6日(日)	第20回定期総会・懇親会開催(ジェイドガーデンパレス)
8月上旬	附属小・中の職員への「語る会」への出席依頼

8月24日(木)	会報「19号」掲載用県外会員への原稿依頼
9月上旬	第2回三役会(20周年記念事業関係)
9月上旬	「語る会」の案内文書発送
9月23日(土)	第2回総務部会(総会・懇親会の総括、その他)
10月13日(金)	「鹿児島島の教育を語る会」提言者事前打合わせ
10月中旬	同窓会費納入奨励月間(会費納入願発送)
10月20日(金)	第2回広報部会(会報用依頼原稿の読み合わせ作業)
10月下旬	「語る会」各専修からの提言者・協賛者確認
11月8日(水)	第2回研修部会(鹿児島島の教育を語る会)確認・準備作業)
11月上旬	校正作業(2回)
11月中旬	第3回三役会・20周年記念事業)実行委員会
11月下旬	第5・6回会報「19号」の発行・発送の準備作業
11月24日(金)	第16回「鹿児島島の教育を語る会」・「懇親交流会」開催

12月上旬	会報「19号」の発送(4千部)
12月	平成30年度学部推薦1人学予定者へ同窓会案内発送
12月	平成30年度学部編入学予定者へ同窓会案内発送
平成30年1月19日(金)	第3回研修部会(「語る会」の反省と課題)
2月	平成30年度大学院入学予定者へ同窓会案内発送
2月	平成30年度学部推薦II入学予定者へ同窓会案内発送
2月下旬	昭和54・55年卒業生(3月末退職予定者)へ会費納入願発送
2月17日(土)	総務部と51・52・53年卒の3学年代表者との打合わせ
3月	平成30年度学部前期・後期合格者への同窓会入会案内発送
3月17日(土)	全学年代表者会(第21回総会・20周年記念大会開催)の協力依頼
3月23日(金)	卒業式・会長来賓列席(会長メッセージ)卒業生へ配付

# 教育学部の動向

鹿児島大学教育学部長

土田 理



鹿児島県の教育特性を踏まえた特色ある学部の実践的科目について、本稿ではご紹介いたします。

鹿児島大学教育学部では、鹿児島県教育の特徴であるへき地・離島における教育の現状を学生に理解してもらうために、毎年、奄美大島での学校環境観察実習を2年生を対象に行っています。

今年度で21回目となるこの実習は、平成9年からの文部科学省委託事業の教員養成学部フレンドシップ事業が出発点です。

平成29年5月時点で、鹿児島県では公立小学校51校の内42%にあたる213校が複式学級を有し、へき地学校数は公立小学校で200校、公立中学校で85校となっています。そして公立中学校220校の約24%が離島に位置し

ているため、鹿児島県の公立学校教員として採用された後は離島勤務が求められることとなります。

一方、本学部の入学生の約60%が鹿児島県出身者であり、その多くが鹿児島県公立学校教員を志願していますが、離島を含むへき地での学校や地域の様子を知らないままに鹿児島県の教員になった場合、赴任に際しては多くの不安があると予想されます。

そこで離島での学校や地域について、学生時代に実際に訪問し、児童・生徒や地域の人たちと交流する中で、地域の特徴や教育の課題を把握することで鹿児島県の教育の特性を理解し、それらに自ら積極的に関わっていく主体性を培うことが、この実習の目的です。

この学校環境観察実習の引率には、私もこれまで7回ほど関わらせてもらいました。

夏に行う実習オリエンテーションや鹿児島新港を夕方出航する船の中では、期待よりも不安が大きく見える学生も少なくありません。しかし、県立奄美少年自然の家での宿泊、奄美市、瀬戸内地区の小・中学校の訪問を経験した約一週間の実習を終えた学生の皆さんは、とても晴れやかな表情で、自信に満ちた姿になります。これは、訪問先の学校の子どもたち、先生方、そして八月踊りなどを教えていただく地域の方々と、あたたかいふれ合いの時間を共に過ごすことが出来ているからだと思えます。

実習の実施は、女性教員を含む学部引率教員3名からなる学校環境観察実習企画運営委員会を毎年立ち上げ、引率教員が行うオリエンテーションを通してのグループ毎の事前課題把握、課題に関して学校環境観察実習時のグループ・ミーティング、そして終了後の報告会での別発表表、報告書作成が行われてきました。これらを通して実習内容の高度化が図られる機会となっています。

毎年、鹿児島県教育庁義務教育課大島教育事務所、奄美市教育委員会、瀬戸内町教育委員会、県立奄美少年自然の家、そして奄美市、瀬戸内地区の小・中学校の諸先生方、児童・生徒の皆さんには、貴重な経験の場を提供していただいています。

鹿児島大学教育学部は、このような実践的科目を通して、これからも地域を支える教員の養成を行ってまいります。

今後とも、鹿児島大学教育学部に對するご指導・ご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 残念!! 中止になった同窓会

南さつま市教育委員会 心の教育相談員

昭和51年卒 上金 きみ子



本年度の同窓会は、台風5号の接近に伴い、止むなく中止となりました。

出席を予定されていた154人の皆様は、一年振り・久しぶりの再会を楽しみにしておられたことと拝察いたします。神奈川や熊本、宮崎など県外からの出席者を含め、当初の目標を超えたことに、事務局・世話係全員喜んでおりましたが、中止になりとても残念でした。

進めてまいりました。同窓会は中止となりましたが、これまでの準備の状況を、ここに紹介させていただきます。本年2月に「50年・51年・52年卒」代表者会、3月に全学年代表者会、4月に事務局と世話係代表との打合せ、5月に世話係代表者会による準備の会の準備、6月に世話係全員で同窓会当日の内容等を検討し、役割分担を行いました。案内状の発送は、事務局でしていただきました。7月は事務局から出席者名簿をもらい、資料・名札・領収書等を作成しました。そして、前日は会場に於いて、世話係代表で放送

# 来年につなぐ

鹿児島市桜島公民館長

昭和52年卒 寺師 千歳



「同窓会は台風接近のため中止のため中止します」の連絡があり、「台風だから仕方がない」というあきらめよりも「事務局や51年卒の方々があれだけ頑張つて準備してきたのに」という残念な思いを強くしたのは、私たち52年卒も同じでした。

私たちは48年入学や52年卒の小学校課程の卒業生で同窓会をスタートし、現在では他の課程の卒業生も参加するようになってきております。そして、毎年8月初旬に小規模ながら学年同

窓会を開催しております。来年は教育学部全体の同窓会の懇親会を担当することです。学年同窓会とは別に、同学年の有志による実行委員会を立ち上げて取り組んできたところでした。教育学部全体の同窓会が予定されていた前日（8月5日）、台風前の雨のさなかに、急な欠席等により少人数ではありましたが、学年の同窓会を実施し、来年の全体会への意思疎通を図ったところでした。

さて、来年は20周年という節目の同窓会です。これまでに先輩方が営々と築いてこられた伝統ある会として、その趣旨が同窓会の間にとっしり根付いて、櫻がつかってきけると実感しています。内容としては、総会のほかに著名な方による記念講演も予定されているとのこと、関係者の皆さんが心待ちにしていることでしょう。その後52年卒が担当するわけですが、大きなイベントだけに、責任の重さを痛感しているところで、私たちの同期の代表として久永守会長を中心に、精一杯取り組んで参ります。平成30年8月、鹿児島大学教育学部のこれまでの歩みを振り返り、未来について語り合うとともに、旧交を温める楽しい時間になりました。

先輩方、事務局の皆様、そして後輩の皆様にも御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

機器の点検・会場の掲示・受付等の最終確認を行う予定でした。余興につきましては、趣向を凝らし、マジックショー・ギター演奏（いずれも51年卒の会員）、第20回の節目を祈念しての島唄等を予定しておりました。懇親会の時間が、恒例の2時間からこれまでの出席者からの要望で、30分延長される予定でしたので、より一層懇親を深めることができたのではないかと思います。準備関係等で事務局の方々には、大変お世話になりました。ありがとうございました。来年度は、本会設立20周年で記念になる同窓会です。当日が天候に恵まれますとともに、同窓会がますます充実・発展しますよう祈念しております。

# 絆は堅く——同窓会の歌「我が友よ」

元鹿児島大学教育学部長



鹿児島大学教育学部同窓会が、めでたく20周年を迎えるに当たって、記念の事業として「同窓会の歌」を作ることになったので、その作詞を担当するようにとのお話をいただきました。

初めは、老齢でもあり、その任にあらずと、お断りしたのですが、石神会長はじめ実行委員の皆様のお力添えのおかげで、その熱き思いに動かされ、かつて25年もお世話になった教育学部のお役に立つのであればと、身の程を顧みずお引き受けした次第です。同窓会からは、同窓生の絆を深め仲間意識を醸成する歌であること、文語調で定型のリズムのものであること、三番までとしタイトルを付けることなど、具体的な要望がありま

したので、それを踏まえながら案を練り、何回かの修正を加え、実行委員の皆様のご意見も拝聴したうえで

**我が友よ**

一 いま明け初むる 東に  
 聳えて高き 桜島  
 雄雄しき姿 仰ぎつつ  
 教への道に 志し  
 共に学べる 我が友よ

二 源はるか 甲突の  
 流れは永遠に 水清し  
 進取の精神 伝へつつ  
 未来を担ふ 人材を  
 共に育む 我が友よ

三 ゆかりも深き 学び舎の  
 歴史を刻む 石碑に  
 輝く功績 偲びつつ  
 絆は堅く 結ばれて  
 共に集へる 我が友よ

で、最終的にまとめあげたものが、この「我が友よ」であります。

伊牟田 經久

「我が友よ」は、同窓生を、年齢や世代の差を超えて、等しく「教への道」に志し学ぶ仲間として、親しみを込めて呼ぶ言葉です。一番は、桜島が暁の空高く聳え立つ姿をイメージし、「雄大・高志・情熱・活動」などの象徴として、我々はその姿を仰ぎ見つつ学んだ志を同じくする友であると、歌い上げました。

二番は、甲突川の水源の一滴の水が流れ流れて錦江湾に注ぎ、豊かな稜りをもたらしさまをイメージし、「永遠性・歴史・伝統・豊かさ」などの象徴として、我々は進取の精神を継承し、未来を担う人材（児童・

### □平成28年度 教育学部同窓会一般会計決算報告書□

1. 収入の部 (単位: 円)

区分	予算額	決算額	増減額	備考
前年度繰越費	472,680 2,330,000	472,680 2,100,000	0 △ 230,000	H 28年度分会費納入者数 210名 『H 28年度納入内訳』 新生 187名 (内7名大学院生) 卒業生 21名 在学生 2名
雑収入	1,000	132	△ 868	預金利息
合計	2,803,680	2,572,812	△ 229,132	

2. 支出の部

区分	予算額	決算額	増減額	備考
事務経費	1,156,000	1,365,462	209,462	賃金 587,500円、通信費 483,042円、文具等 135,676円 不動産貸付料 35,532円、その他 123,712円
会議費	210,000	139,384	△ 70,616	総会 65,146円、理事会・役員会 53,238円、その他 2,000円
事業費	576,356	364,824	△ 211,532	会報作成費 213,252円、語る会 62,600円 学年・教科同窓会等補助 52,592円、人材活用事業補助 0円 その他 3,380円
同窓会連合会経費	150,000	129,512	△ 20,488	鹿児島大学同窓会連合会分担金 外
会計区分変更	64,103	64,103	0	特別会計(国際交流基金)へ組み換え。 ※平成27年度実施額の充充分
予備費	647,221	0	△ 647,221	
合計	2,803,680	2,063,285	△ 740,395	
次年度繰越額		509,527		

● 会費納入について ●

会費納入については、学生の場合は入学時に、すでに納入しているが、教育学部既卒者の場合は随時納入することになっている。同窓会は平成10年に設立され、会費は終身会費として1万円となっている。会の運営は会費によってなされ、会員の親睦や母校の発展と教育の振興を図ることを目的としている。特に、既卒者で未納になっている会員にはぜひ協力をお願いしたい。

事務局としても計画的にお願いをしているが、教科部会等を通じて納入を勧めたい。

納入の方法については、学年代表あるいは事務局に直接連絡してほしい。

鹿児島大学教育学部同窓会役員

顧問 島尾 隆 俊  
名誉会長 佐藤 俊  
副会長 松島 静  
理事 石井 正 俊  
          池田 明 男  
          文永 治 子  
          東馬 洋 子  
          有島 行 洋  
          鮫野 弘 一  
          林内 賢 一  
          川園 寛 一郎  
          平野 昭 彦  
          末吉 昭 彦  
          福満 昭 彦  
          寺下 昭 彦

### □平成29年度 教育学部同窓会予算□

1. 一般会計

(収入の部)

区分	平成28年度決算額	平成29年度予算額	備考
前年度繰越費	472,680	509,527	
会費	2,100,000	1,720,000	※平成29年度学生定員変更 学校教育教員養成課程 225名が200名に定員減(△25) 特別支援教育教員養成課程 15名 生涯教育総合課程 35 名が廃止(△35) 教育学部学生定員 215名(前年275名)
雑収入	132	1,000	預金利息
会計区分変更		500,000	特別会計(記念事業積立金)から流用
合計	2,572,812	2,730,527	

(支出の部)

区分	平成28年度決算額	平成29年度予算額	備考
事務経費	1,365,462	1,276,000	賃金 550 千円、通信費 450 千円、文具等 100 千円、不動産貸付料(事務室借料) 36 千円、本部役員手当 40 千円、その他 100 千円
会議費	139,384	130,000	総会、理事会、役員会等 100 千円、その他 30 千円
事業費	364,824	490,000	会報作成費 220 千円、鹿児島教育を語る会 100 千円、支部、学年教科同窓会補助 60 千円、人材活用事業 10 千円、その他 100 千円
同窓会連合会経費	129,512	140,000	鹿児島大学同窓会連合会学部分担金 100 千円 外
会計区分変更	64,103	400,000	特別会計(国際交流基金)へ組み替え ※H28年度実施額(進取の精神支援基金) 400 千円の充充分
予備費	0	294,527	
計	2,063,285	2,730,527	
次年度繰越額	509,527		

2. 特別会計

(1) 記念事業積立金

(収入の部)

区分	平成28年度決算額	平成29年度予算額	備考
前年度繰越	12,269,500	12,037,947	
合計	12,269,500	12,037,947	

(支出の部)

区分	平成28年度決算額	平成29年度予算額	備考
同窓会名簿資料作成	231,553	0	
一般会計へ流用		500,000	
合計	231,553	500,000	

(2) 大会開催等準備基金

(収入の部)

区分	平成28年度決算額	平成29年度予算額	備考
前年度繰越	1,009,986	1,009,986	
合計	1,009,986	1,009,986	

(支出の部)

区分	平成28年度決算額	平成29年度予算額	備考
大会開催等関係経費	0	1,009,986	
合計	0	1,009,986	

(3) 国際交流基金

(収入の部)

区分	平成28年度決算額	平成29年度予算額	備考
前年度繰越	435,897	100,000	
一般会計からの組み替え	64,103	400,000	H 28年度未充充分
合計	500,000	500,000	

(支出の部)

区分	平成28年度決算額	平成29年度予算額	備考
国際交流基金	400,000	400,000	(進取の精神支援基金)
学部国際交流活動支援	0	100,000	
計	400,000	500,000	

学部及び連合会の関連行事

幹事 佐藤 俊  
監事 北原 隆 俊  
事務 野間 英 俊  
支部世話役 鹿島 正 俊  
          (鹿島) 鹿島 正 俊  
          (掛川) 川口 正 俊  
          (日置) 早野 正 俊  
          (川原) 川原 正 俊  
          (薩摩) 向島 正 俊  
          (水戸) 宮原 正 俊  
          (佐賀) 原野 正 俊  
          (熊本) 川島 正 俊  
          (大分) 川島 正 俊  
          (熊本) 川島 正 俊  
          (大分) 川島 正 俊

平成29年4月3日(月) 教育学部新入生オリエンテーション(新入学生への会長挨拶)

平成29年4月9日(日) 同窓会連合会 総会・懇親会「卒業生の集い」

平成30年11月中下旬 同窓会連合会 第1回幹事会

平成30年3月中下旬 同窓会連合会 第2回幹事会連合

平成30年3月中下旬 同窓会連合会 第3回幹事会連合

平成30年3月中下旬 同窓会連合会 第3回役員会(8学部同窓会長)



# 小・中の現職教員も参加し 学生を励ます

## 「鹿児島県の教育を語る会」で意見交換

第15回「鹿児島県の教育を語る会」は、平成28年11月25日(金)午後4時から教育学部の大会議室で、教育学部の教職員・学生・卒業生約90人が参加し開催された。8グループに分かれた協議会では、テーマの「未来への挑戦」について、学生とOBが率直に語り合った。今回は小中学校に勤務している現職の教員も8人が参加し、様々な世代の意見を交換する場となった。学生たちは、現場を経験された大先輩の話や現職の先輩の生の声に多くの刺激を受け、将来を展望していた。

### 提言経験者も参加

孔子は論語で、師になる条件として温故知新を説いたが、今回の「語る会」では、学生たちが故きを温ねるばかりでなく新しきも知ってもらおうと教育学部附属小・中学校の8人の先生方にも参加していただいた。

その中には、第3回の「語る会」で提言者として参加された先生もおられ、そのことが学生たちへの大きな励みともなった。

### 未来への挑戦

今回は、鹿児島大学学生憲章にうたわれている「進取の気風」にあふれる学生を育てたいという思いから「未来への挑戦」というテーマが設定された。

協議は、8グループに分かれ、テーマに対する専修学科代表2人の提言をもとに進められていった。

提言者が考えている「未来への挑戦」の一部を紹介する。

- ◇自分の研究を生かす教師
- ◇地方公務員としての自覚
- ◇生徒とともに学び続ける教師
- ◇養護の視点を持つ教師
- ◇失敗を恐れない教師
- ◇よい授業を行うこと
- ◇国際化する未来に必要な力を身につけること
- ◇教師の多忙化への挑戦
- ◇鹿児島の美術教育の成長

- ◇面白い授業・褒める授業
- ◇学習内容と日常生活を関連付けた教育実践
- ◇教師として人を育てること
- ◇未来のために今を考えること
- ◇個性を大事にする教師

これらの提言をもとに午後4時半から6時まで行われたグループ協議は、卒業生の司会と学生の記録で進められていった。会場には時折笑いが起こったり、喝いた喉をお茶で潤したりしながら緊張の中にも肩の力を抜いた雰囲気の中で率直な話し合いが行われた。

学生たちは、様々な経験を積んだ先輩の言葉や最近の教育実情を最もよく知る現職の先生方の言葉など、異なる世代の教育観に触れて新鮮な感動を味わっていた。

### 文集に収録

学生たちが提言した発表文は、「鹿児島の教育を語る会発表文集」(第3集)に収録される。第3集は、第9回く16回までの8年分の提言が掲載され、教育学部同窓会設立20周年記念事業の一つとして、平成30年8月に発行される予定である。記念祝賀会参加者や教育学部の学生たちに配布される。

### 学生の感想

□ 初めての参加だったが、と



でも有意義な時間を過ごすことができた。今までにない考え方や物の見方に触れることができ、多くの刺激を受けた。学んだことを実践に生かし、自分の将来にも生かしていきたい。機会があればまた参加したい。

□ 小会議室で肩の力を抜いて、いい雰囲気の中で遠慮なく発言できた。様々な世代が集まった話し合いだったが、このような機会は減多になく先輩方の話など聞いて、まだまだ知識も経験も足りないことを実感する貴重な場となった。教員を目指す学生にはとてもよい会だと思ふ。

□ もやがかかっていたが、先輩方の話を聞いて先が見えてきた。教育学部の他の専修学科の人と話をするのができてよかった。4年生よりもむしろ1年生から3年生の出席がよいのではないか。(研修部・東 寛治)

### 広い視野をもって

教育学部国語科4年 幸山 岳史



私は中学校 又は高校の国語の教員になりたいという思いで入学しました。しかし、1年生の時に学校体験で小学校に配属され、学年は1年生でした。最初は正直、中学校に行きたかったと思っていました。そのような中、数日間たけではありませんでしたが、小学校に行き、小学校の面白さというのを感じ、小学校の教員を第一希望とするようになりました。

このように大学では何に出会って、自分がどう変わるかわからないことが多くあるのではないかと思います。そのため、教育学部に入ってからと言って、教員という職業だけを見るのはもったいないのではと思うのです。確かに教員という仕事はどんな仕事でどんなスキルが必要でというのを身に付けることも大切であり、教育学部ではそういうことを勉強するものだと思います。だからこそ、授業や実習以外の時は様々な世界や物事に目を向けてみるのが大切だと思うのです。一般企業のインターンに行ってみたり、イベントスタッフをしてみたり、教員という職業以外を知ってみるのも良い経験になると思います。実際に私自身も企業のインターンやボランティアで様々な人と出会い、話をしたこともあります。その上で、こんな面白いことがあるのかと思えたことも子どもたちに伝えられたらと思うようになり、やはり教員になりたいと考えました。他にも色々な所に旅行したり、バイトしたりなど様々なことをしてみるのが良いと思いました。夢にこだわりながらも、固執しないことを心掛けていきたいです。

### 教師という道を選ぶ

教育学部数学専修4年 湯村 真由



私は一度しかない人生を どう進んでいけばいいか悩んでいた時に、中学時代の恩師や教師であり尊敬していた祖父の姿を見て、教育に携わりたいと考え教育学部に入学しました。鹿児島で新たな一歩を踏み出すという期待もありましたが、初めての土地で一人暮らしをする不安もありました。家族や友人の支えもあり、今、私にとって鹿児島は第二の故郷になったと思っています。

大学では、「児童心理研究会」という障がいのある子どもたちと関わるボランティアサークルに所属していました。この活動で得た経験と、何度か計画を練りながら実行し感動を分かち合ってきた仲間と出会えたことは大きな財産になったと思います。4年間を振り返ると、環境や友人に恵まれており、充実した時間を過ごすことができました。その中で一つ、自分に足りなかったことがあると感じています。それは挑戦する姿勢です。やろうとして尻込みしたことがいくつかありました。高校時代の友人が世界を旅し、多くの人々の前で、旅で得たことを話す活動をしたりと知った時、このような姿勢が必要だと感じました。自分から飛び込んでみてこそ新しい道があるのだと思えました。

自分の経験全てを教材にし、生徒に伝えることができるのは教師の魅力の一つであると考えます。多くのことを生徒に伝えることができるよう、何事にも挑戦し経験を積んでいきたいです。理想の教師像に近づけることができるよう努力し、祖父のように生涯学び続けながら教育に携わっていきたくと考えます。

### 絆深める「ウンデカ会」

昭和41年卒 前田 成美



昭和41年 卒の中学校 課程理科専攻は男ばかりの11名であった。

化学式にはギリシャ文字がよく使われるので理科マンらしく11人の集まりを「ウンデカ会」とした。卒業後5年目であった。1年ごとに幹事を順に務め、その年の企画運営を担った。毎回の様子を二冊のノートに残すことにした。今ではこのノートが宝物となっている。定例会以外にも旅行(国内・国外)、竹島での魚釣り、出水でのアユ獲り、囲碁大会等も実施した。ノートをみると今年46回目となっている。早いもので大学卒業後50年以上が過ぎ去ったことになる。現役のころは、教科の指導内容や生徒指導等体験を披露しながら熱く議論を交えたものだった。焼酎も後押しして熱を帯びた。誰にも気兼ねなく、本音で語るのので得るものも多かった。

しかし、退職してからは、教育内容から次第に遠ざかり時事・社会全般に関する話題が多くなった。今は専ら家庭や健康問題が中心になっている。よい趣味をもっている者ほど生き生きと語る。今年の幹事は、「残された人生をいかに生きるか」と真剣に考える歳になったね。」とまとめた。歳を経ることに社会との交わりも少なくなり淋しい後ろ向きな気持ちになりがちであるが、毎年1回昔の仲間と集まって懐かし語り合えることは無上の喜びである。1回も途切れることなく続いている。飲み方が好きなだけでは量れない何か11人の心の中にあるような気がしている。「人生はこれからだ」と「ウンデカ会」が後押ししてくれるところである。

### 編集後記



▼この夏も異常気象の連続でした。台風5号は長寿で迷走しながら、平成29年度の同窓会総会を止めてしまいました。予定した会報の紙面構成に狂いが生じ、御迷惑をお掛けすることになりました。内容を変更しながら玉稿をお寄せくださった皆様にお礼を申し上げます。

▼大学の中央にある「進取の気風広場」に、稲盛和夫名誉博士の立像が建立されました。制作者は教育学部の池川直教授です。近くの農学部へ抜ける道は昔のままの森の中にあります。「同窓会の歌」を口ずさみながら散策する日ももうすぐです。

広報部(文城テツ子、有馬暢洋、林賢一郎、川内野一彌、後藤千和子)